

あきた Biz⁺ 5

2022
May
Vol.580

目まぐるしく変化する事業環境
「環境変化に対応し、未来の可能性を切り拓こう!」



新型コロナ感染対策を徹底し事業拡大に取り組むYA-YA DINING GROUP

少子高齢化や人口減少、新型コロナとの共存といった長期化する社会問題に加え、顧客の価値観及び需要の変化や、急速に進むと思われるデジタル化などの環境変化は、事業活動に大きな影響を与えます。

こうした事業環境の変化による影響度合いは、それぞれの事業者が置かれている状況により違いはあるものの、対策に手をこまねいていると、気づいたときには対応が困難になり、場合によっては事業が存続できなくなる危険性があります。

県内21商工会と県連合会は、令和4年4月からスタートした「商工会成長プラン'22-26」の中で、事業者の皆様が事業環境の激しい変化に対して柔軟に対応できるよう、足元の課題整理から具体策の提案までサポートし、未来の可能性を共に切り拓いていきます。

■身近に迫る環境変化

最近、「以前と変わった」と感じる出来事はありませんか？

「原材料価格の上昇」や「決済方法に関するお客様からの要望・問合せ」など、日々の経営の中で、変化への対応方法を十分に整理できないままに生じる問題が今後も増えていくと予想されます。

事業者を取り巻く事業環境においては、変化を当たり前として捉え、それを前提にこれからの経営を考えることが重要課題の一つです。

■環境変化が企業に与える影響

長期化する新型コロナ	●感染拡大による自粛ムードの蔓延 ●飲食時の人数制限や非接触型生活の日常化 ●ECサイト利用者の増加など購買動向の激変	売上減少 
国際情勢等の影響	●原油・エネルギー価格の高騰 ●円安による輸入価格の高騰	利益の圧迫
少子高齢化・人口減少	●市場規模の縮小 ●生産年齢人口の減少や後継者の不足	事業継続の危機
法律・制度の改正	●電子帳簿保存法の改正 (電子取引データ保存の義務化) ●インボイス制度の導入 (適格請求書発行事業者登録の見極め)	デジタル化の遅れによるビジネス機会の喪失 
デジタル化の加速	●オンラインサービスや電子決済の多様化と浸透 ●テレワーク導入企業の急増	

■環境変化に強い経営基盤づくりに向けて

これらの環境変化に対応し、事業の維持発展を目指すため、日頃から身の回りの変化を捉え、自社の現状を把握することが重要です。

STEP1

日頃から自社の強みの分析や資金繰りなど経営課題の把握ができている

日頃から市場の動向を把握している

日頃から得意先へのアプローチや地域とのつながりを大切にし、関係性の維持と強化に努めている

STEP2

経営環境の変化に対して迅速かつ柔軟な対応ができる

経営環境が変化する中でも得意先や常連客、地域の顧客から継続した支持・信頼を得ている

STEP3

経営環境が変化する中であっても業績が安定しており、有事の際も回復が早い



困難を乗り越え、地域に必要とされる飲食店へ!

○事業者概要

「食」を通じて人々に感動と驚きを与えるレストランでありたいという思いから、「食のビックリ箱=FOODBOX」として㈱フード・ボックスを創業した。「YA-YAダイニング」の屋号で、故郷である能代市ニツ井町の洋食店としてスタートし、現在は「YA-YA DINING GROUP」として、秋田市で飲食店3店とベーカリー工房1店、能代市の「道の駅ふたつ」内にフランチャイズ2店を展開している。



エリアなかいち(秋田市)の「ビストロ88バル&デリカテッセン」

○事業者へのインタビュー

代表取締役 阿部 淳

▶これまでの取組を教えてください

事業拡大を図るため、秋田市や宮城県塩釜市へ、洋食店やジュースバー、アイスクリーム店等をを出店しました。しかし、2011年の東日本大震災により塩釜市の店舗が被災した際、スタッフ等と十分にコミュニケーションが取れないことにストレスを感じ、真のサプライチェーンとは何かを考えました。事業を足元から固めるのは目の届く範囲でのOJTによる人材育成が重要と考え、震災後の8月に再開した塩釜店は他社に譲渡し、その後、数年かけて秋田駅周辺に店舗を集中させることにしました。スタッフが今どのような思いで働いているかは、実際に面談や店舗巡回をしながら会話してみないとわかりません。業務はデジタルツールで管理しても、スタッフの思いや気持ちはアナログですので、直接的な機会を作り、話し合うことが大切だと考えています。



地元であるニツ井町産の米を使用したDELI弁当

▶今考えていることを教えてください

新型コロナやウクライナ問題等、不安定な社会情勢が我々秋田に住んでいる者にも多大な影響を与えているということを、身を持って感じています。他人事と捉えず、小さな会社が「イマデキルコト」を共有し、常にいい意味での危機感を持つようにして事業展開を考えています。今最大の懸念材料は、こうした社会情勢が背景にある「食材等の価格上昇」です。自社の「イマデキルコト」を考え、事前に商工会へ相談し、事業計画書の作成を支援してもらいながら思いをカタチにしています。

今後予定している「環境変化に対応するための取組」

- コロナ禍でも安心してレストランを楽しめる環境づくり
- フードロスゼロを目指し、全ての食材の見直しと県産品との連携
- 事業再構築補助金に採択された「高齢者向け宅配サービスとセントラルキッチン」の推進と強化
- ウクライナを支援するため「ウクライナボルシチ」等の販売で、売上の一部をWFP国連世界食糧計画へ寄付
- SNSを活用した情報発信の強化

✓ 商工会にご相談ください!

事業環境変化対応型支援事業を実施しています!

商工会では、長引く新型コロナの感染拡大に加え、急速に進展するデジタル化、税制改正によるインボイス制度導入など、事業環境の変化により影響を受ける事業者の事業継続が可能となるよう、相談員を設置し、各種支援策の情報提供や補助金等の申請サポートなどを強化しています。

ぜひ、ご活用ください。

秋田の未来を支える商工会の独自戦略

県内21商工会と県連合会では、時代の急速な変化に対応しながら事業者の繁栄と地域経済の活性化を目指すために、地域の新たな可能性を切り拓く5年計画「商工会成長プラン'22-26」を策定し、4月よりスタートしています。

このプランは、組織をあげて共に取り組む「共通戦略」と、各商工会が地域の強みを活かして創意工夫し取り組む「独自戦略」から成り立っています。

本プランの目玉「独自戦略」とは

各地域の置かれている状況を整理・分析し、地域経済の活性化を実現するために何を行うかを明確にしたもので、今後の取組の象徴となります。

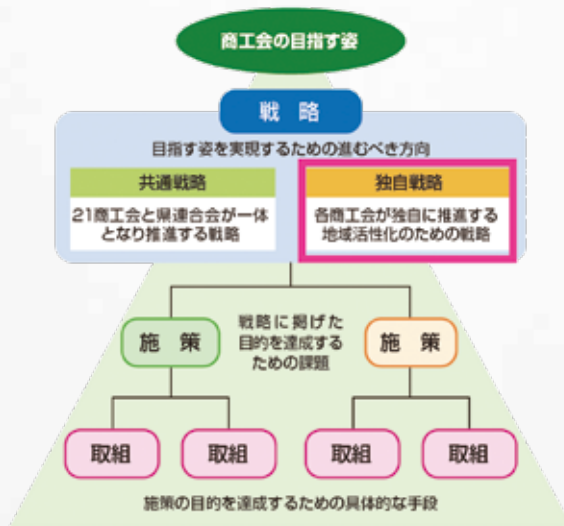
この独自戦略が一斉に県内各地で動き出すことで、秋田県経済に大きなインパクトを与えていきます。

主な内容

- 道の駅や商店街を核とした地域のにぎわい創出
- 洋上風力発電事業やダム建設工事を通じたビジネスチャンスの創出
- 大手民間企業等との連携による交流人口の拡大
- 漁業者と連携したサーモン養殖試験事業による地域経済の活性化 など

「成長プラン」という名称には、双葉を出し、花を咲かせ、実をつけていくプロセスである成長へつなげていくという意味を込めています。

県内21商工会と県連合会は、前例に捉われず様々なことに挑み続け、5年後の地域の成長を目指してまいります。



成長プランの体系図

県内21商工会の独自戦略

次号より新コーナーとして、県内21商工会の独自戦略の注目ポイント等をシリーズでご紹介します。乞うご期待ください。

広告

商工会員だけの大きな特典
商工会が提案する4つの安心サポート

商工貯蓄共済

経営指導
経営のトータルサポート

生命保障
万が一に備えた
リスク管理サポート

資金繰り
企業の資金繰り
サポート

貯蓄
資産の充実
サポート

どちらも月々
2,000円
から

あなたも家族もまるごと守る!
頼れる補償の商工会の福祉共済

全国商工会会員福祉共済

「けが」の
補償

「病気」の
補償

「がん」の
補償



※この紙は再生紙を使用しています。

発行所／秋田県商工会連合会 〒010-0923 秋田市旭北錦町1番47号秋田県商工会館内 電話／018-863-8491(代)
購読料／1部10円(会費に含む)